

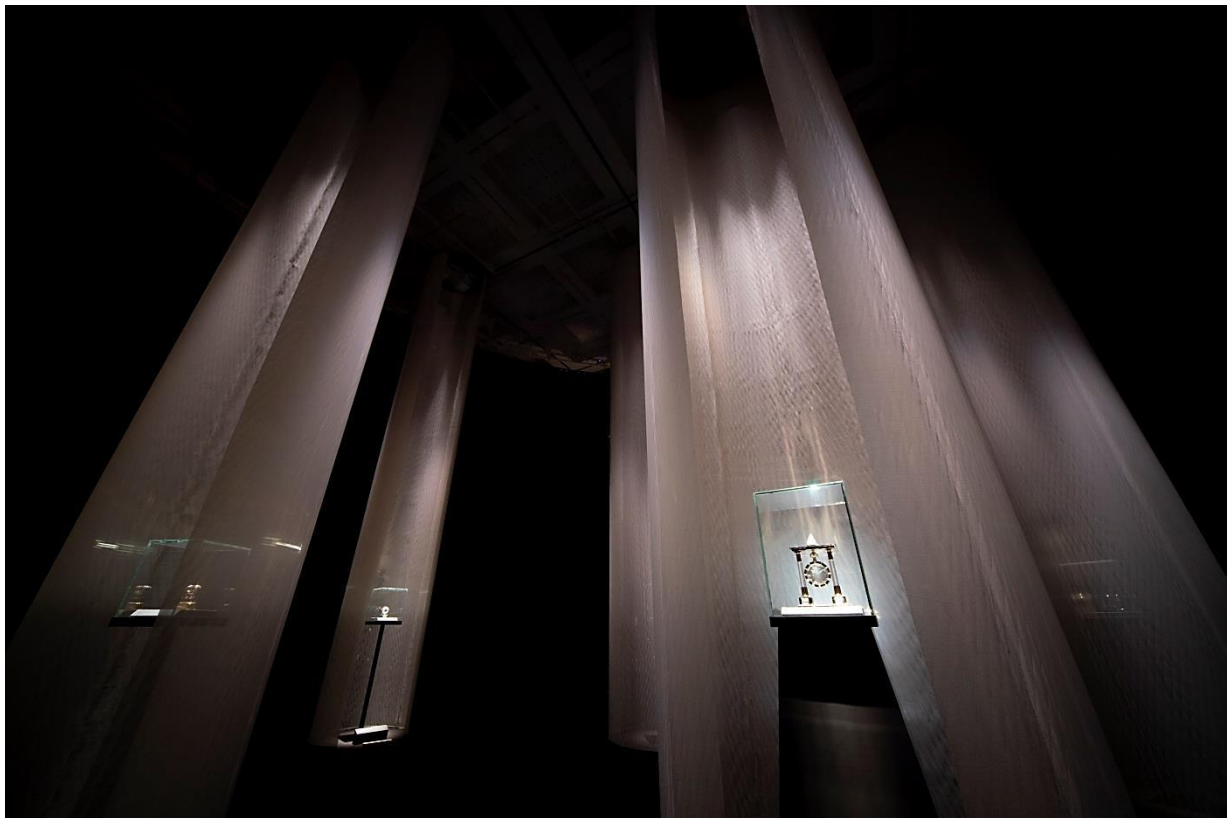
報道関係各位

2019年10月16日  
株式会社川島織物セルコン

**「カルティエ、時の結晶」展に協力しています  
新素材研究所と「光と闇」を表現するファブリックを共同開発**

会 場:国立新美術館 企画展示室 2E (東京・六本木)  
会 期:開催中～2019年12月16日(月)

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市 社長：木村弘一）は、2019年10月2日より国立新美術館で開催中の「カルティエ、時の結晶」展の会場を構成するファブリックを提供しています。



展示風景 序章「時の間」

新素材研究所

© N.M.R.L./ Hiroshi Sugimoto + Tomoyuki Sakakida

photo: Yuji Ono

本展覧会の会場構成を手がけるのは杉本博司と榊田倫之による新素材研究所。展覧会のプロローグとなる「序章」では、新素材研究所と川島織物セルコンが共同開発したファブリックが、幻想的な空間を彩っています。

新素材研究所としても初めての試みであるファブリックを用いた空間表現として、“鉱石が眠る深い地底にわずかな光が差し込むイメージ”を、川島織物セルコンが誇る織技術を駆使して制作しました。天井高 8m の高さからやわらかな光がジュエリーに伝わるように、美しい光の柱がファブリックで表現されています。

天井から筒状に垂らされスポットを当てられた 12 本の光の柱には、風通（ふうつう）織（二重織）を採用し、約 8 メートルのグラデーションを実現しました。また、暗闇を表現した黒いファブリックは、西陣織の「羅」の透け感をイメージして制作、透過度の高い黒色のファブリックを重ね合わせることで空間の奥行きを表現しました。また西陣の伝統技術「引箔（ひきばく）」を応用してラメ糸を織り込み、ジュエリーにも似たきらめきも表しました。何度も試作と検討を重ねて、「光と闇」を表現する新しいファブリックが完成しました。

川島織物セルコンは、ファブリックを通じて様々な分野での活動を推進していきます。

## ファブリック概要

光柱（白いファブリック）

組成：ポリエステル 100%

種別：ジャカード織物

概要：風通織という二重織の組織を用いたファブリック。上部から下部に掛けて光の透過量に連続的な変化を持たせるため、ファブリックの厚みに変化をつけ、8メートルのグラデーションで表現した。

暗闇（黒いファブリック）

組成：ポリエステル 100%

種別：ジャカード織物

概要：羅のような透け感をイメージし、緯糸に光沢のあるフィルム糸を使用してきらめきを表現したジャカード織物



## 「羅(ら)」と当社のかかわり

「羅」の歴史は古く、中国の前漢時代（紀元前 206 年- 紀元後 8 年）に出土例があるほか、古代中央アンデスでも製織されており、日本に伝わったのは 7 世紀前後と言われています。現在、正倉院に収蔵されているものなど、「羅」は仏や菩薩の装飾や舞楽の衣装などに使用され、高貴で特別な織物でしたが、15 世紀ころになると、その織り方や組織の複雑さのために日本での技術継承が一度途絶えてしまいました。現在、織られている「羅」は 1925 年に当社社員が製作方法を研究し、復興させたものです。

## 【参考情報】

### 展覧会概要

展覧会名：カルティエ、時の結晶

会 期：2019年10月2日（水）～12月16日（月）

休 館 日：毎週火曜日

[ただし10月22日（火・祝）は開館、10月23日（水）は休館]

開館時間：10:00～18:00（毎週金・土曜日は20:00まで） ※入場は閉館の30分前まで

会 場：国立新美術館 企画展示室 2E

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

<http://www.nact.jp>

主 催：国立新美術館、日本経済新聞社

特別協力：カルティエ

後 援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

協 賛：大成建設、山元

協 力：川島織物セルコン、宇都宮市／大谷石材協同組合、ジオネクサス、SALIOT、  
ザ・ユージーン・スタジオ

会場構成：新素材研究所

展覧会ホームページ：<https://Cartier2019.exhn.jp/>